

奈良時代
始まり

天皇中心の国の仕組みが出来上がる (大宝律令 701)

↓ 天皇の権威を示す

710 平城京に都を移す

租調庸

班田収授法 口分田

疫病、ききん、内乱など

↓ 仏教の力で国をまもるため

東大寺、国分寺、国分尼寺を建てる

(聖武天皇)

↓ 仏教が政治に口出しするようになる

↓ 重い負担に農民が苦しむ

逃亡や戸籍を偽る

↓ 人口増もあり口分田不足

墾田永年私財法

↓ 仏教勢力を排除して政治を立て直すため

794 平安京に都を移す

終わり